

令和2年度教育事業

「若狭ワンダーキャンプ」第1弾 (R 2. 6. 13 (土) ~ 14 (日))  
 第2弾 (R 2. 6. 27 (土) ~ 28 (日))  
 第3弾 (R 2. 7. 11 (土) ~ 12 (日))

令和2年度教育事業

Wakasa Wonder Camp 日帰り!

若狭ワンダーキャンプ シーカヤックを楽しもう!

新型コロナウイルスの状況を考慮し、今回は、第一弾は福井県南地域、第二弾は福井県内にお住まいの方々を対象といたしました。今後の事業は、情勢を見ながら参加対象を拡大していく予定です。

自然の家LINEアカウントができました！今後の事業案内をお届けします。

第1弾 6/13(土)・14(日) 申込 専用WEBフォーム→ 6/5(金) 17:00 募集締切 ※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。 ※抽選結果は、6/8までにメールにてお伝えします。

対象 福井県南地域に在住の小学校4～6年生の児童とその保護者(2人1組) 定員: 15組30人

第2弾 6/27(土)・28(日) 申込 専用WEBフォーム→ 6/19(金) 17:00 募集締切 ※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。 ※抽選結果は、6/22までにメールにてお伝えします。

対象 福井県内に在住の小学校4～6年生の児童とその保護者(2人1組) 定員: 15組30人

詳細は裏面に!

独立行政法人国立青少年教育振興機構  
 主催 国立若狭湾青少年自然の家  
 〒917-0198 福井県小浜市田島区大浜 TEL: 0770-54-3100 担当: いたろ・こやた  
 後援(申請中): 福井県教育委員会・小浜市教育委員会

◆目的

新型コロナウイルス感染症拡大により、長期間の家庭滞在を余儀なくされた。近隣地域の小学生を含む親子に対し、若狭湾での体験を通して、気分をリフレッシュするとともに親子での体験活動を共有し、若狭湾の自然の美しさを感じ、再認識する機会とする。

※ 第3弾は、中止となった第1弾の参加者を対象として追加実施。

◆参加実績

参加 35組

①年齢	小学4年生	11組
	小学5年生	15組
	小学6年生	9組
②地域別		
	福井市	4組
	あわら市	2組
	越前市	1組
	鯖江市	1組
	敦賀市	10組
	小浜市	13組
	若狭町	2組
	高浜町	2組

※ 第1弾(6月13日、14日)と第3弾(7月12日)は、悪天候により中止。

◆プログラム<日帰り>

- ① 受付
  - ・職員は、コロナ対策をして参加者を受け入れる
  - ・参加者は、受付後、宿泊室で準備をして艇庫に集合
- ② はじまりのつどい
  - ・所長のあいさつ、職員の紹介、活動の流れを説明
- ③ 体験①「シーカヤックの基本」
  - ・フローティングジャケットの安全な着用、バトルの操作の説明
  - ・シーカヤック操作の基本、安全管理の説明
- ④ 昼食 持参弁当か注文弁当を広場などで食事
- ⑤ 体験②「シーカヤック体験」
  - ・シーカヤックを安全に操作しながら自然に親しむ



## ⑥ まとめ

- ・後片付け、着替え場所の説明、アンケートの回答について

### ◆成果

- ① アンケート結果からも、参加者が「自然を満喫できた」「親子共々とても楽しめました」など、全員満足した（満足度100%）と回答が得られた。
- ② 時間に余裕をもって取り組むことで、参加者は活動を楽しむことができた。
- ③ 参加者は、コロナ感染拡大防止対策に理解してもらい、検温や施設の取り組みに理解した上で、活動することができた。



### ◆参加者の声

- 海が綺麗で感動しました！
- 子供のいつもと違う一面を見られました。
- 普段見る事の出来ない海側から景色も迫力満点でした。
- 親子共々とても楽しめました。スタッフが多かったので安心してできました。ありがとうございます。子供が、「またシーカヤックしたい！」と言っているので、この企画があれば応募したいと思います。
- 家族4人で訪れて、年齢の都合でシーカヤックは息子、父のみの参加でしたが、4人とも楽しめました。見学している間は磯遊びができたり、波打ち際で遊んだり、意外とあっという間に時間が過ぎました。
- これほど長い時間、マスクを外して楽しんだのは久しぶりです。今後も様々な体験活動を楽しみにしています。



### ◆事業運営のツボ・工夫・反省

- 新型コロナウイルス感染拡大防止対策をするために、打合せする時間を設け、職員の周知徹底に努めた。今回の対応は、今後の事業実施上の基本になると考えられる。
  - ・ 玄関前で参加者の検温をし、受付をした。
  - ・ 受付には、防護シート、館内には消毒液を設置した。
  - ・ 職員はマスクの着用など感染防止に努めた。
  - ・ 参加者の着替えは、1家族1部屋用意した。
- 蜜にならないように、説明する場所は、間隔を2m空けることや、親と子で役割を分担してもらうように、通常の指導に加えて運営を行った。
- 参加者との連絡は、webやe-mailを活用したことで、運営の負担は減らすことができた。
- 参加者にアンケートを記入してもらうのを、グーグルのフォームを利用した結果、回収率も高い結果となった。
- 反省として、日帰りのプログラム事業の場合、中止になる可能性があるため、昼食は持参をお願いした方がよいと思われる。



◆事業運営費	合計	16,667円
消耗品費		2,460円
印刷費		14,207円